



神内っ子

笠岡市立神内小学校 学校だより

令和3年6月9日 No.5

【笠岡東中学校区小中一貫教育 教育目標】

郷土を愛し、夢の実現に向けて高め合い、
たくましく生きる児童・生徒の育成

- ・進んで学ぶ子
- ・思いやりのある子
- ・元気な子
- ・ふるさと大好き神内っ子



6年生が学校を引っ張っています!

ここ2か月子どもたちの様子を見ていて目を見張るのは、上級生の頑張りです。

4月、入学式の準備や片付けをきびきびと行っていたことから始まり、登校班の班長として、また、1年生の給食の準備の手伝いや、掃除のリーダーとして下級生に接する姿は、さすがが最高学年です。

コロナ禍で、体育館に全校児童が集まるのではなく、ICTを活用してリモートで集会活動をしています。ここで光るのが、司会進行の児童です。はきはきしていて、爽やかで、とても気持ちがいいです。1年生歓迎集会では、各学年が趣向を凝らしたお祝いのメッセージを届けたり、神内小学校のことがわかるクイズをしたり、6年生のリードによって、リモートで楽しく有意義な時間を過ごし、お互いの気持ちを交流させることができました。毎月はじめの児童朝会の児童会長の会の進め方も素晴らしいです。



1年生 教室掃除



1年生歓迎集会

『すまいるハウス』との交流学習 ～インクルーシブ社会へ～

学校の近くに『重度障害支援センター すまいるハウス』という施設があります。4月に赴任した際、挨拶に伺ったところ、「小学校と交流をしたい」と言われました。4年生の総合的な学習の時間は、『福祉』をテーマに学習をしていくことにしていたので、『すまいるハウス』との交流を通して、子どもたちが課題を見つけ、自分たちで考えて解決していく力と、地域と積極的にかかわっていく態度を育てることを目標に学習を進めていくことにしました。

「相手のことを知ろう」「仲良くなろう」という目標を立て、5月31日に、『すまいるハウス』に行って交流する予定でしたが、緊急事態宣言を受けて、リモート交流に。それでも子どもたちはとても楽しみにしていました。

当日、すまいるハウスとリモートでつながると、子どもたちの元気な声と笑顔が届き、利用者さんと介助の方の表情がパッと明るくなって歓声が上がりました。お互いに自己紹介や、教室や施設の紹介をした後は、宝（子どもたちが折り紙で作ったプレゼント）探しゲームをしました。もうちょっと右だ左だと子どもたちがヒントを言って車椅子を動かしてもらい、利用者さんが宝に辿り着いた時は、どちらも笑顔に。

最後、施設の方が挨拶の中で、「『すまいるハウス』の前を通ったら手を振ってください。」と言われました。「早速その日の帰りに『すまいるハウス』の前で手を振ったら、手を振り返してくれてうれしかった。」という子どもたちの話を聞き、大切なことを学習しているということに改めて感じました。『すまいるハウス』との交流では、福祉について知るだけでなく、自分たちが社会との架け橋になっていることに気付いてほしいですし、この神島地区がインクルーシブで誰にとっても優しい社会になることを願い、それを実現するために行動することの大切さを学んでほしいと思います。

